

第31回鈴鹿市文芸賞の受賞作品が決まりました

◆一般の部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	小説・評論等	おかだよしこ	風の流れに
	エッセイ	山端 みどり	一升の米
	アフォリズム	佐脇 且紀	定年を過ぎた夫は、長い間従順さを装ってきた妻には所詮勝てない。
	詩	深谷 孝夫	看護師さんに感謝
	短歌	森谷 佳子	さざんか
	俳句	嶋田 知子	啓蟄や
	川柳	河内 秀斗	常夜灯
優秀賞	小説・評論等	伊藤 久昭	帽子
	エッセイ	森谷 佳子	君やがて君みずからのためにしも
	アフォリズム	富田 武彦	石鹸は我が身を削り他人(ひと)の汚れを落とす。偽政者は私腹を肥やし名を落とす。
	詩	澤田 悟	しっぽがあれば
	短歌	城 本山	桑名の渡し
	俳句	猫楠	日々雑感(春・夏)
	川柳	小出 順子	辞表

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	小説・評論等	該当者なし	
	エッセイ	小幡 永	スーパー・ベリー・グッド
	エッセイ	平 英男	神田まつやのそばが食べたい
	エッセイ	渡邊 逸郎	宿の主とお相撲
	アフォリズム	柚木 実	果てのない除草の労苦嘆くとも あの ヒロシマの再生の兆しとなりし草なれば
	アフォリズム	小林 登志樹	心の力学で言う意思の力とは、勇気の量と、決断の質に比例し、怯えや不安の二乗に反比例する。
	アフォリズム	中山 美保	出生率が下がっていくのを横目で見ていたのに、長い間、女性をこき使って、今ごろ、人口減少対策だなんて、滑稽すぎる。
	詩	小川 はつこ	飛べない蝶
	短歌	野間 啓司	シニアのテニス
	短歌	片岡 和夫	農作業
	短歌	佐野 真澄	ふる里は遠きに…
	俳句	藤田 和清	月・風・色
	俳句	澁谷 実	秋の暮
	川柳	戴 けいこ	夏の風吹く
川柳	村井 一朗	表裏	

◆ジュニアの部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	作文・童話等	小川 愛奏	かわいそうじゃない
	詩	古市 仁心	地きゆうは大切だ
	短歌	中村 亮介	飛行機の窓から景色のぞいたら富士山さえも小さな模型
	俳句・川柳	小川 愛奏	集まって力あわせる千羽づる
優秀賞	作文・童話等	水野 菜奈	ペンま一族
	詩	小川 愛奏	やっぱリイヤだあ
	短歌	長野 愛夕	カギしめてカーテンしめておるすばん子供だけだよだれも来ないで
	俳句・川柳	山田 兼久	すいかたべかぞくみんなでたねとぼし
奨励賞	作文・童話等	高瀬 りり子	一人ぼっちの火のようせい
	詩	該当者なし	
	短歌	国府田 小夏	暗闇に大きな音が鳴り響き火花が空をあざやかにする
	短歌	国府田 朱音	塾おわり強烈にふる夕立ちにずぶ濡れ覚悟で一歩踏み出す
	短歌	小川 愛奏	市役所のでんぼうロビーから見ると千代崎の海空と合体
	短歌	堀内 妙恵	いもうとはわがままばかりねだりっこねてるときだけてんしみたいだ
	短歌	松岡 亜弥	かけっこでおとうさんからいわれたよ二いでおしいねうれしかったよ
	短歌	中村 友護	ねころぶとすごい早さですべれるよながれるプールもめっちゃたのしい
	短歌	近藤 董	たん生日家ぞくみんなで川あそびとんぼもかにもおいわいしてる
	短歌	辻 莉紗	あめやんだにじがかかったすごいことにじがふたつだきょうだいかな
	短歌	星野 結衣菜	だいじょうぶこえかけられておもったよげんきになれたまほうのことば
	短歌	米倉 唯菜	夏休み電車にのってお出かけだガタガタゆれたあすなろう鉄道
	短歌	真弓 奏音	妹がないばかりでおこられるわたしはなにもわかんないのに

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	短歌	久保田 なずき	おばあちゃんうなぎをもってあらわれる土用のうしなら牛がよかった
	短歌	脇田 奏	コロナかでねことすごしたなつやすみわたしはしゅくだいきみはおひるね
	短歌	鈴木 蘭	ばあちゃんの畑から来たスイカたちスイカのたねがせいれつしてる
	短歌	加藤 優萌希	しゃぼんだまふわふわそらにとんでいきいぬのゆうくんおいかけていた
	短歌	辻山 四季	花火の日夜の堤防父と歩く辺り一面かえる鳴く声
	短歌	安本 愛	たこやきのカツオぶしたちふわふわとおどりまくってパーティーみたい
	短歌	丹羽 葵	地区陸で走高跳跳んでみて自己ベストでず悔しかった日
	俳句・川柳	国府田 小夏	ひまわりは青空のもと咲き誇る
	俳句・川柳	丹羽 泰誠	望遠鏡のぞいてみるとうちゅう旅行
	俳句・川柳	堀内 勇志	初花火二才の妹声あがる
	俳句・川柳	沢田 英翔	なつの雲ごはんみたいでおいしそう
	俳句・川柳	北岡 惟吹	スイミングぶかぶかうかぶたのしいな